

## 「物流の新しい取組で農業経営を変えていく」 ～高橋光男氏（高橋農園・讃岐富士農産）～

### 経営体の概要

就農時：平成22年度  
基幹作物：にんにく  
経営面積：0.1ha



現在：平成29年度  
基幹作物：にんにく、なばな、なす等  
経営面積：0.8ha（うち、にんにく0.4ha）

### 取組の経緯と経営転換のポイント等

平成22年に高橋農園を立ち上げ、にんにくを主品目に生産・一次加工まで行い、取引先のニーズに合った商品を提供できるよう経営展開している。また、高橋氏を代表に青年クラブの有志が集まり、量販店等へ地元産野菜等を出荷する体制を整えるため、讃岐富士農産を平成28年に立ち上げた。品目、数量や規格などの量販店等の要望に応えることで、地元農家の出荷先確保し、収益の向上に貢献している。本事業により、地区内では年間を通して安定的に用水供給されていることで、多品目の野菜や果物が栽培され、年中出荷されている。

### 営農改善のポイント

#### ①流通・販売の工夫

＜高橋農園＞：にんにくを一次加工（皮剥き）することで、飲食店や食品加工業者のニーズに答えている。「農商工連携ファンド事業」により県内の食品会社と連携し、にんにくを使用した調味料等の開発と販路開拓を行っている。また、精麦会社と連携し製造した「にんにくみそ」で、近隣の大学生がラベルのデザインを担当し、商品化に至っている。

＜讃岐富士農産＞：集荷した地元の新鮮野菜は、大手会社の物流システムを通じ、京阪神の量販店で販売されている。主要品目（なす等）と産地直売用に分けて出荷方法を生産者が選択でき、出荷翌日には、量販店の店頭で並ぶため鮮度が保たれたまま販売され、生産者の経営安定に繋がっている。また、なすは規格を8段階に細かく分けることで、消費者ニーズにあった規格を提供でき、量販店と消費者からも好評を得ている。

#### ②担い手の育成確保

＜高橋農園＞：香川県青年クラブの会長を務めており、農業大学校の生徒を積極的に受入れている。生徒には、年2回（春・秋）、3～4ヶ月間の研修を行い、農作業を通じて栽培技術を指導し新規就農者を育成している。

＜讃岐富士農産＞：新規就農者は、ロットや品質統一の点で販売先の確保が難しいため、少量出荷でも受入れる体制にしており、新規就農のハードルを下げるようにしている。また、生産者同士の繋がりにより、新規就農者の栽培技術も高まり、就農定着に繋がっている。

・高橋農園



にんにくみそ「愛しのにんにく」

・讃岐富士農産



出荷用デザイン(なす)



出荷状況(産地直売用)

### 事業概要

事業種：国営農業用水再編対策事業  
関係市町：香川県丸亀市、坂出市、善通寺市、  
宇多津町、琴平町、多度津町、まんのう町  
受益面積：3,996ha  
事業期間：平成20年～平成28年  
事業目的：用水改良  
主要工事：用水路の新設・改修61.2km  
水管理システムの整備 一式

### 位置図（香川県）



### ＜局問い合わせ先＞

中国四国農政局  
農村振興部農地整備課  
電話：086-224-4511  
(内線：2562)

(平成29年度調査時点)